



困難だからこそ燃えてくる闘志！！

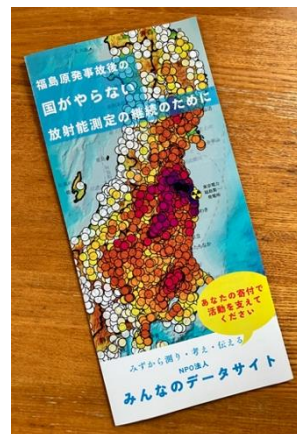


みんなのデータサイトがNPO 法人となって、はや1年。原発事故から13年を過ぎ、人々の関心は薄れる一方、測定依頼も先細りの今、この団体を法人化することのリスクは確かに大きいものでした。にもかかわらず法人化をしたのは、これから先、より広い会員の方々と共に活動を進めていきたいこと、また助成金等の応募も法人格を持つことで(少しは)幅が広がる可能性があるからでした。セシウム137の半減期である30年、せめて団体を存続できればとの願いでもあります。

なかなか広報が行き届かない中で、こうして少しずつ支えてくださる会員が増えつつあることに感謝しています。本当にご支援ありがとうございます。

また、法人化して新たな理事会・運営委員会・プロジェクトチーム編成をしたこの1年は、お金が無いなりに充実した活動ができていたという手応えがあります。その中から、高木仁三郎市民科学基金の助成を得て事業を展開している「測定室のつくりかたプロジェクト」を簡単に紹介します。この事業では、全国にある・もしくは過去にあった市民放射能測定室へのアンケート調査と、直接訪問しての測定室インタビューを実施しています。震災直後の非常に辛苦しい時にどのようにして測定室を立ち上げることができたのか、に始まり、今日までのご苦労や工夫も伺っています。子どもたちを放射能から守りたいという切実な願いが生み出すパワーと英知、熱意と粘り強さに改めて触れ、個人的に大変やりがいを感じ学びの大きなプロジェクトです。次年度以降にも続く大プロジェクトとなっていますので、詳しくは次号にプロジェクトリーダーからの近況報告を掲載したいと思っています。

そのほか、今回報告するイベント・学習会プロジェクト、また、旬の食品測定プロジェクト(春はタケノコと山菜プロジェクトを実施。次号あたりには結果の報告ができますと思います)などに取り組みながら、日々の資金作り(助成金申請)等に奔走する日々です。助成金の審査結果はなかなか厳しく(笑)、放射能の被害を目に見える形にする我々の団体がいかにか「都合が悪いのか」を痛感しております。ますます闘志を燃やし、助成金頼みにならず、安定した運営ができるようにしていかなければと思います。実際に活動するにはどうしてもある程度の資金が必要になってきます。測定プロジェクトは、経費を各地の測定室に分配し少しでも測定室の維持運営を支えたいと思います。皆様の周りに関心を持ってくださる方がいれば、ぜひみんなのデータサイトをご支援くださるよう、一人でもお声掛けをいただけましたら幸いです。寄付リーフレットをお預かりいただける方、お店、スポットなどございましたらお知らせください。いつでもお送りいたします。どうかよろしくお願い申し上げます。(事務局・中村奈保子)



ー 共に学び、伝え、語り合う場づくりを「イベント・学習会」チームー

「イベント・学習会」事業は、皆で原発や放射能についての理解を深めていくことを目的にしています。チームメンバーは、北海道の「はかーる・さっぽろ」富塚とも子、新潟の「あがのラボ」村上直行、埼玉の「森の測定室滑川」根岸主門、事務局 中村奈保子の 4 人で、月に1回定例ミーティングで企画を考えて実施しています。



メンバーは全国に散らばっているのも、オンライン会議システム ZOOM やメールで進めています。

また、コロナ禍を境に、学習会もオンラインが中心となっています。顔を合わせての会は大切なのですが、一方でオンラインの良さもあります！ なんとといっても全国どこからでも、時には海外からもご参加いただけるようになったことです。また時間が合わなくても、いつでも何度でも録画を後からご覧いただけます。

イベント・学習会定例ミーティングの様様（2024 年 6 月）

最近では、2 月 17 日に牛山元美医師のご協力のもと「安定ヨウ素剤オンライン配布説明会」を実施し、当日参加と、後日の申込（オンラインでできるようになっています）を合わせて100人の方が視聴し、最大で 460 人分の安定ヨウ素剤が配布される予定です（この数は概数です）。これも北海道から九州まで本当に全国津々浦々からのお申し込みをいただいています！

この活動は、日本中の、特に小さなお子さんがある世帯や若者たちには安定ヨウ素剤を手元に備えていて欲しい、という牛山先生の強い願いが込められています。届いた問診票をチェックして安定ヨウ素剤を発送してくださっている牛山先生には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

安定ヨウ素剤が事前配布されているのは、原発からおおよそ半径 5 キロ圏内（PAZ: 予防的防護措置を準備する区域）というわずかな範囲です。その外側、半径 5 キロから 30 キロ圏内（UPZ: 緊急防護措置を準備する区域）の住民に対しては、自治体や県の職員が備蓄場所（保健所・防災センター・役場や支所等の指定された場所）の安定ヨウ素剤をいざというときに配布場所に運び、そこで配布するという「絵に描いた餅」なのです。さらに 30km を超える場所には何の措置もありません。福島原発事故の時には放射性物質が 200 キロ以上も飛んできました。放射性ヨウ素による初期被曝を防ぐため、安定ヨウ素剤を入手しておいて欲しいです。

この記事を読んで、ご自分はもちろん、ご親戚やお知り合いで小さなお子さんや若者たちに安定ヨウ素剤を持っていて欲しいなと思われたら、今からでも申し込みます！ オンラインで動画を見た後に問診票を記入して郵送することで、安定ヨウ素剤を郵送で受け取ることができる仕組みになっています。

詳細・申し込みはこちら→ <https://minnanods.thebase.in/items/67213798>

そのほか以下のように講座を実施してきました。

●「能登半島からの警告を読み解くーうごいてなくてよかった志賀原発、つくられなくてよかった珠洲原発」講師: 大沼淳一（C-ラボ）

2024 年 2 月 26 日実施

●「春到来の今知りたいー山菜・タケノコの放射能の傾向を知ろう」講師: 大沼章子（C-ラボ） 2024 年 4 月 17 日実施

●「保育園と一緒に歩んできた森の測定室滑川 放射能測定の 13 年間」講師: 根岸主門（森の測定室滑川） 2024 年 5 月 13 日実施

★過去の講座の録画は Youtube(ユーチューブ)で見ることができます。 <https://www.youtube.com/@minnanodatasite2915>

今後、会員の皆様と一緒に企画を考えていきたいです。こんなテーマの学習会をやってほしい、もっと初心者向けにして欲しい、たまには交流会もいいんじゃない？ 等リクエストがございましたら、いつでも minnanods@gmail.com までお寄せください！お待ちしております。

次回は 7 月 8 日（月）10 時～。次ページにチラシがあります <https://mds-11.peatix.com> （←詳細・申し込みページ）

お申し込みはメールでも受け付けます。 minnanods@gmail.com へ、お申し込みください！

学校給食と放射能 「ゲルマニウム半導体測定器で
測定し、4Bq/kgを超えた食材は使用しない」を実現させた

札幌の市民運動の軌跡と 市による給食食材測定12年間のデータを読む

さっぽろ市民放射能測定所 はかーる・さっぽろ

私たちが
お話しします



代表：富塚とも子



運営委員：佐々木百合香

7/8 (月)

10:00am ▶ START



オンライン開催
アーカイブあり

こんにちは！はかーる・さっぽろの富塚とも子です。

北海道は日本最大の食料供給地域(2022年度のカロリーベースの食料自給率は日本全体で約38%、北海道は223%)です。しかし、厳寒の地ですから、10月から5月までスーパーに出回る葉物野菜は東北・関東(いわゆる東日本16都県)産が主流となります。

東京電力福島第一原発事故直後、札幌市内のスーパーから東北・関東産の野菜が一斉に姿を消し、代わりに四国・九州・沖縄産のものが並びました。一方、札幌市の学校給食で使用される野菜の産地は、東北・関東産のままだったのです。食材の放射能検査も行われていませんでした。

札幌圏に、インターネットで情報を集め、内部被曝に危機感を強めたお母さんたちがいました。家庭の食材を見直すとともに、完全給食を実施している小学校にお弁当を持たせました。そこで、出会いが起きます。当時、たくさんの避難者さんが来道しました。多くが、子どもを守ると決意した母子避難でした。

2011年初夏、避難者さんも交えたお母さんたちは、子供の通う学校や札幌市の教育委員会と話し合いを進めます。わが子だけが、安心なお弁当を食べればいいのでしょうか？子どもが自分では選べない給食だからこそ、おとなが安心安全を担保すべきです。

SNSで賛同の呼びかけも始めます。市と何度か話し合いの席を設けましたが、暫定基準値セシウム合算値500Bq/kg下、「国が

安全というものは安全」が札幌市の鉄板回答でした。

署名提出。女性市議会議員による代表質問での要望。500人規模の会場での給食フォーラム開催。お母さんたちと多くの市民がちからを合わせて運動を進めていきました。

2011年11月28日、上田文雄札幌市長(当時)は学校給食の食材検査を12月から行うことを定例記者会見で発表しました。ゲルマニウム半導体測定器を使用し、4Bq/kgを超えたものは使用しない。画期的な行政判断でした。お母さんたちの熱意が実を結んだ瞬間でしたが、それだけではありません。

さっぽろ市民放射能測定所 はかーる・さっぽろは、この運動をきっかけに誕生しました。行政の測定内容を評価するためには、市民が放射能の知識と測定の手段を持つ必要があると考えました。そもそも、北海道の放射能汚染の実態はどうなっているのか？

そもそも、東日本16都県以外の食材なら安心なのか？知りたいことは山ほどありました。

測定の結果、思いもよらない汚染の実態にも出会いました。

札幌市の学校給食の食材測定は、2024年3月をもって終了しました。

12年4か月にわたる測定データから分かること、また、学校給食における食の安全についての課題についてもお伝えできたらと思います。

●詳細・お申し込みはこちら <https://mds-11.peatix.com/view> (右にQRコードあり)

詳細・申込

*メールでの申込・問い合わせは minnanods@gmail.com へお願いします。

申し込みいただくと当日参加用のZOOMのリンクが届きます。当日ご都合が合わない方も是非。全員に、後日アーカイブ(録画)のリンクを送ります。

主催：NPO 法人みんなのデータサイト 福島県福島市飯坂町一本松 11-7 TEL 024-573-5761



活動紹介

みんなのデータサイトでは様々なプロジェクトが実施されています。プロジェクトリーダーから簡単に活動内容・近況を報告します。

(恒例)旬のもの(春:タケノコ・山菜)測定プロジェクト(6月15日現在) 大沼章子

今年のタケノコは、39件がデータベースに登録されており、食品基準値の 100 Bq/kg を超えるものは今のところ見つかっていません。山菜は種類が多いので、総数 189 件がデータベースに登録されていて、そのうち5件が食品基準値超え(以下)です。

品名	産地	セシウム 134(Bq/kg)	セシウム 137(Bq/kg)	測定日
こしあぶら	栃木県那須郡那須町	ND	603.00±121.00 (12.40)	2024-04-24
コシアブラ	宮城県角田市	ND (11.87)	126.67±15.44 (9.97)	2024-04-27
コシアブラ	宮城県気仙沼市	ND (6.20)	100.90±2.50 (6.60)	2024-04-30
ごんぼっぱ(オヤマボクチ)[縁故品]	福島県双葉郡葛尾村	3.13±0.94 (2.79)	203.00±4.18 (2.37)	024-05-06
ゼンマイ[縁故品]	福島県双葉郡葛尾村	124.00±5.42 (12.10)	7500.00±32.40 (10.20)	2024-05-07

今回も縁故品の中に非常に高い値のものがありません。政府の帰還・移住促進政策が進む中、そうした方々が、いかにも季節感あふれる山野草に放射能汚染がまだまだ残っていることを知らずにうっかり食べてしまわないよう、注意喚起が必要です。

この結果は、まだ集計が完全に終わっていませんので、暫定的なものになります。今後結果を取りまとめ、詳しく解析していきます。結果は後日の学習会でもお伝えしていく予定です。

市民測定室の作り方プロジェクト(つくば市民放射能測定所・藤田康元)

市民放射能測定室の立ち上げ事情や状況、測定装置の入手方法や正しい測定手法、そして測定所の運営維持のノウハウを記録に残す。事故から 10 年以上経ち、全国の市民放射能測定室は高齢化や後継者不足、また測定依頼の減少等により閉鎖・解散が増えています。事故後手探りで立ち上げ、様々な苦労の末獲得してきた測定手法や運営のノウハウをまとめ後世に残したいと、昨年このプロジェクトはスタートしました。6 月 15 日現在、アンケートに回答をいただいた測定室のなかから15の測定室の訪問インタビューができました。それぞれの測定室に物語があり、苦労があり、工夫がありました。大変意義深い調査プロジェクトであると、改めて実感しているところです。高木基金の助成金の年度が 7 月末ですので、その後中間報告をまとめたいと考えています。次号で詳しくみなさまにもお知らせができればと考えています。

ハウスダストプロジェクト(あがのラボ・村上直行)

第1号でお知らせした、ハウスダストプロジェクトは、福島原発事故によって日本全国にばら撒かれた放射性セシウムの実態を知るために全国のご家庭を対象に「掃除機ゴミパック」に捕集されたハウスダストを測定するプロジェクトです。ハウスダストは周辺の土壌等の住環境の汚染状況を敏感に反映する指標として有効と考えられています。ゴミパックを開封しての作業はダストによる 2 次汚染の危険性が有るため、測定者にも優しい「ゴミパックまるごと測定法」の確立を目指して検討を進めています。

フワフワで軽い(密度が低い)そして中身が不均一なゴミパックをどうすればより正確に測り、かつ相互比較ができるか？統一した手法を確立する試行錯誤が続いています。プロジェクトの進捗は随時ご報告いたします！引き続きご注目ください。

編集後記

今号も、「みんなのデータサイト通信」をお読みいただきありがとうございます！最近、日野行介(元毎日新聞記者)氏の著書を立て続けに読み、中でも「福島原発事故 被災者支援政策の欺瞞」では、忘れかけていた政府の施策の数々を思い出すことになり、非常に辛い気持ちで何度も本を閉じることになりました。そして 2024 年現在、自民党の東日本大震災 復興加速化のための第 12 次提言が政府に申し入れられました。しかし世間では、もう過去のこととして話題にも上りません。原発事故被災県である福島県や地元メディアも過去のことになりたい？そのような中で非常に居心地の悪さを感じながら日々を過ごしています。(事務局・阿部)

今年の 6 月で NPO 法人化して 1 年になります。通信発行は以前より話に出ていましたが NPO 法人化を機会に定期発行することになりました。前回の通信を会員さんや今までご寄付された方にお送りしましたところ、新たに賛助会員になって下さる方がいたり、寄付を頂いたりしました。ありがとうございます。(事務局・清水)